

「佐久市都市計画マスタープラン」の一部改定に係る住民説明会での意見

開催日	会場	意見の内容(要旨)	当日の回答内容
1 4/7	浅科支所	説明のあった内容は、佐久の発展のために非常に結構なことだと思う。4市町村合併をした時に、新市将来都市像で、地域ごとにゾーンを位置付けていたと記憶している。これは、現在のマスタープランと関わりがあるものなのか。	現在の都市計画マスタープランにつきましては、平成20年3月に策定されています。策定時には、市町村合併時の浅科地区の地域的な課題やまちづくりの考え方、ゾーニングを引き継いでおります。その中で、すべてが実現できたわけではありませんが、本年度より、都市計画マスタープランの全面改定を予定しておりますので、改めて課題を整理して、浅科地区のまちづくりの方針を位置付けてまいりたいと考えております。
2 4/7	浅科支所	市の考え方に賛成です。高崎駅前でも、競馬場跡地の活用等を市で考えて進めており、高崎駅を通るたびに素晴らしいと思っていたので、佐久平駅でもぜひそのような考えで進めてもらいたい。	ご意見として承ります。
3 4/7	浅科支所	マスタープランについては、今日説明を聞いて具体的に理解できた。 樋橋の開発は、浅科としても他人事でなく、佐久市の大きな発展として捉えなければいけないと感じた。 できたら浅科に夢のある大きな事業があると良いと思った。 そうした中、説明のあった地域別構想の一部改定だが、地域の特性に応じた課題を整理し、地域住民にとって身近なまちづくりのあり方を示すとあるが、ぜひ浅科地区の特性を活かした街づくりを期待したい。 実際には浅科の住民も参加して核をつくっていく構想を進めていただきたい。区民参加の街づくりをしないと浅科の特性は活かしにくい。 次に情勢変化や経年変化による変更について、7つの項目が挙げられている。浅科地区の対象はないが、浅科で挙げようならば公民館の経年を考えていただき、改築改善を考えていただきたい。	全面改定の際には地域特性を踏まえた計画にいたします。浅科地区についても、地域の現況と課題ということで現在のことが掲載されています。 全面改定にあたっては分析をしておし、これを踏まえた課題についてどういった取り組みをしていくかは、住民の皆様のご意見を聞く機会をいただきながら策定してまいりたいと考えております。
4 4/7	浅科支所	樋橋地区では、夢や希望がもてるまちづくりを進めていただきたいと思います。佐久市は、まだまだ発展をしつづけてもらいたいと思います。 また、地権者の皆さんがイオンモールの出店に賛成しているとの説明でしたが、消費者の立場から言いますと、ショッピングにあたって、いろいろな選択肢が増えることは有り難いことですし、働く場所が増えれば、若い人たちも喜ぶと思います。 また、ショッピングセンターを目的に、市外から大勢の人が集まれば、周りの商店街や飲食店に対しても、経済効果が見込めるのではないかと思います。 何も無いところに、新しいまちをつくっていくという話ですので、みんなで知恵を出し合って、よりよいまちづくりを進めてもらいたいと思います。	ご意見として承ります。
5 4/7	浅科支所	樋橋の開発はよいが、小諸市で言われているコンパクトシティ的なものになるのではという懸念がある。 バランスのとれた開発が進められていると思うが、見た目には一極集中になり、どちらかという千曲川から西は忘れられはしないかという心配がある。 佐久市全体像でみているから、細かいことを言うてはいけませんが、そういったところはどうか。	佐久市においてもコンパクトシティという考えは大切だと考えています。 コンパクトとは、一定の範囲に施設を集め、極力歩いて行ける範囲で生活をする、暮らしやすい範囲、という考えが基本となっています。ただこれは、佐久平駅周辺に集約するということではありません。 コンパクトシティ プラス ネットワークといわれるように、各地域には中心となる拠点がありますので、そうした拠点を公共交通で結ぶことで、各地域の拠点に集約するということです。 一極集中ではなく、多極型の街づくりを目指します。 またこれは急激な集中ではなく、長い年月の中で行っていくことが必要と考えております。
6 4/7	浅科支所	佐久平周辺は、まだ発展の余地があり、自由に絵が描けるので、きちんとした絵を描いてどんどん進めていただきたい。商業地域で、人も沢山来て、就労が増えればいいことだと思う。	ご意見として承ります。
7 4/7	浅科支所	1つだけ心配なのが、旧中山道の道路が狭いこと。イオンの南側から浅科に抜ける昔のバイパスがあるが、あそこの道路を広げないと佐久平に全部渋滞してしまうので、道路整備をお願いしたい。 均衡ある発展と言われているが、あちこちに色々なものを作るよりは、道路を広げてちゃんと整備した方が、お互いの交流も進むのではないか。	道路整備につきましては、住宅等の密集しているところを拡幅するというのは、事業費の問題等もあり、なかなか進まない状況です。そういったことから、北幹線ということで、枇杷島橋から東に向けて県と市で、バイパス的な道路の整備を進めています。 また、樋橋地区の開発に合わせまして、下仁田浅科線の歩道整備を計画しています。

開催日	会場	意見の内容(要旨)	当日の回答内容
8 4/7	浅科支所	市内には空き家が多いように思われる。樋橋地区周辺に住宅地を設けるというような計画だが、空き家が各地域にある現状を踏まえ、これを活用して、人を呼び込み、若い世代が子育てに来るような方策も検討していってほしい。	本年度、建築住宅課で空き家の調査を行う予定です。現在市内には空き家がかんりの戸数あることは分かっています。しかし、あくまで推計としての数値しか把握できていないため、しっかりとした数字を把握し、その調査結果を踏まえ、活用していくための計画を、来年度作っていくことを考えております。 空き家の活用に関しましては、佐久市は全国NO.1の成約率である「空き家バンク」を利用して、多くの皆さんが佐久市に移住しています。また臼田では、都会で現役を引退されたけれども元気な方に地方へ来てもらうというCCRCの構想に基づいて、空き家の活用を考えています。
9 4/7	浅科支所	健康都市を市長は目指しているとのことだが、これから高齢化社会、少子化時代に向けて、医療などの問題は自分を含めて大切なことになる。健康都市を目指すことはよいことだと思う。ぜひそのようなことを含めて、将来の佐久市のまちづくりをすすめてほしい。	ご意見として承ります。
10 4/7	浅科支所	今、10万人都市ということですが、将来に向かって佐久市の目指すシミュレーションがあればお聞かせいただければありがたい。	まずは、人口を確保しないといけないというのが第1と考えています。佐久市が何もしなければ平成72年には7万人まで人口が減ってしまうという状況が、推計として出ています。今と比べ3万人減ってしまうと、空家も当然出てきます。人口が減ることはどうしようもないことですが、施策の充実により8万6千くらいの人口は確保したいと考えています。ただし、目標では10万人を維持したいと考えています。そのために、今年から妊産婦やひとり親に対する支援など、子育てしやすい施策を行っています。やはり、人口が確保できなければまちの発展は見込めないため、まずは人口を確保しようと、他部局と連携して進めているところです。